

No. 一

昭和56年度帰国研修員巡回指導

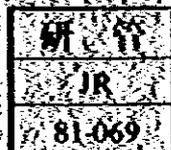
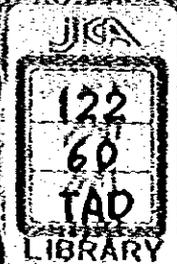
開発エコノミスト(工業プロジェクト)コース

帰国研修員巡回指導班

報告書

国際協力事業団

研修事業部



JICA LIBRARY



101723767

昭和56年度帰国研修員巡回指導

開発エコノミスト(工業プロジェクト)コース

帰国研修員巡回指導班

報 告 書

国際協力事業団

研修事業部

国際協力事業団	
受入 月日 84. 3. 23	122
登録No. 01916	60 TAD

は　じ　め　に

この報告書は、国際協力事業団が実施した集団研修「開発エコノミスト（工業プロジェクト）コース」に参加した帰国研修員に対するフォローアップ事業の一環として帰国研修員の所属機関及び関連機関を訪問し、当該国における諸問題に関する指導並びにニーズの調査等を行うため、タイ及びエジプトの2カ国に派遣した巡回指導班の業務報告である。

当該研修分野における各国の実情、帰国研修員の活動状況、及び研修に係る要望事項等について関係者各位の一層の御理解をいただき、今後の研修実施の改善の一助となれば幸いである。

本件の実施について多大な御尽力を賜った外務省、通商産業省、その他関係各位に感謝の意を表します。

昭和56年9月

国際協力事業団
研修事業部部長
山　村　　寛

目 次

1. 巡回指導の目的	1
2. 巡回指導班の編成と日程	2
3. 巡回指導の方法	3
4. 巡回指導班の活動状況	5
タイ	
エジプト	
5. 帰国研修員の現状	8
6. 開発エコノミスト（工業プロジェクト）コースに対する研修員上級管理者 および帰国研修員の意見	11
7. 各国における当該研修派遣研修員選考手続き	13
8. 今後のコース運営に関する勧告	16
9. あとがき	18
10. 参 考 資 料	19
1. 研修員リスト	20
2. Questionnaire	22
3. タイ国関係機関へ提出したレポート	27
4. エジプト国関係機関へ提出したレポート	37

1. 巡回指導の目的

- 1-1 開発エコノミスト(工業プロジェクト)コースは、1976年に開設されて以来、1981年に至る6年間に6回の実施を重ねた。この間に発展途上国から受入れた研修員の数は34カ国から102名に達した。今回の巡回指導(Follow-up services)の対象となったタイおよびエジプトからは、それぞれ8名および6名の研修員が参加した。これらの研修員の受入年度別、氏名、当時の地位および1981年9月現在の地位を別表(研修員リスト)に示した。
- 1-2 今回巡回指導班に対して示された巡回指導の目的は、当該研修に参加した帰国研修員の所属機関および当該国の関係機関を訪問し、我国で実施した当該研修コースに関する成果を測定し、現地で帰国研修員に対する指導、助言を行うとともに、当該研修分野に係る当該国のかかえる問題点およびニーズを把握することにより、今後の研修員受入れ事業ならびにフォローアップ事業の向上改善に資することにある。
- 1-3 研修効果の測定は、当該コースの内容がいわゆるソフト技術の移転であることから、測定の尺度もしくは基準をどこに求めるかがまず問題となる。工業プロジェクトの発案から実施にいたるプロジェクト・サイクルに多くの政府、民間機関のスタッフが関与するのが常であり、帰国研修員は、多くの場合にこのプロジェクト・サイクルの一部に直接に関係するにすぎないだろう。この意味で研修効果の測定に当っては次の諸点を特に配慮することにした。
- (a) 帰国研修員の帰国後より現在にいたるまでの職務内容
 - (b) 当該国における工業プロジェクトのプロジェクト・サイクルにおける帰国研修員の職務内容の位置付け
 - (c) (a)および(b)との関連で帰国研修員が当該国の工業プロジェクトに直接・間接に関与している度合い
- 1-4 この際とくに考慮すべきことは、当該国における工業プロジェクトと行政組織との関係にある。工業プロジェクトは必ずしも工業省のような機関でのみ発案されるとは限らず、総理府、経済企画省、外務省の経済協力担当窓口などのような機関でも行なわれる場合がある。さらに訪問国における経済開発計画の作成の過程で個別的に工業プロジェクトが提示される場合もある。このために上述の(a)、(b)、(c)の3つの研修効果測定基準は、訪問当該国における工業プロジェクトのプロジェクト・サイクルを広く当該国の経済発展の戦略および政策形成との関連で考察しながら検討しなければならないだろう。

2 巡回指導班の編成と日程

2-1 巡回指導班は、国際協力事業団の人選基準にのっとり次の3名をもって編成した。

犬飼一郎 (財) 国際開発センター研修ディレクター兼主任研究員

安室奈美 (財) 国際開発センター研修プログラムコーディネーター

和田晴夫 国際協力事業団八王子国際研修センター研修課職員

2-2 巡回指導班の班長は、犬飼一郎とした。

2-3 巡回指導班は、昭和56年9月8日より17日までタイ、9月18日より23日までエジプトを訪問することとし、詳細な日程予定表を当該国訪問1か月前に当該国駐在JICA事務所に送付し、かつまた現地日本大使館およびJICA事務所に対して巡回指導班に対する便宜供与の依頼を行った。

2-4 巡回指導班の最終日程は、タイにおいては9月9日、エジプトにおいては、9月19日に、それぞれ現地JICA事務所において打合せの上で決定することとした。

3. 巡回指導の方法

- 3-1 当該国訪問に先立ち、あらかじめ質問表を作成し当該国 JICA 駐在事務所を通じて、巡回指導班出発 1 ヶ月前に前研修員の追跡調査をかねて当該コース前研修員全員に対する配布および回収を依頼した。また JICA 事務所に対して当該国関係機関と前研修員との懇談の日程表を送布し、訪問日時の確認を依頼した。
- 3-2 当該国に到着後、速やかに日本大使館および JICA 事務所を訪問し、巡回指導に必要な事項について予備知識、助言および勧告を受けた。
- 3-3 日本大使館においては、当該国の全般的開発状況および当該国と我が国との経済技術協力の現状と動向などにつき説明を受けた。
- 3-4 JICA 事務所において、質問表の配布・回収による追跡調査の結果に基づいて巡回指導日程特に前研修員との個人面接の日程を調整した。さらに当該研修コースに関する当該国側の一般的評価、今後における当該コースの必要性、企画および運営についての助言、勧告などを受けた。
- 3-5 当該国研修員取扱い窓口機関を訪問して次の事項を調査した。
- (a) 当該コースに対する全般的評価
 - (b) 当該コースに関して配布される説明資料、情報の適否また改善の余地
 - (c) 研修員の募集および選考の状況および方法
 - (d) 帰国後の研修員に対する措置

取扱い窓口機関

タイ DTEC

エジプト Dept. of Cultural Relations & Technical Cooperation,
Ministry of Foreign Affairs

- 3-6 帰国研修員所属機関の上級管理者と面接して次の事項を聴取した。
- (a) 研修員の派遣推薦基準
 - (b) 帰国研修員の現状
 - (c) 帰国研修員の待遇
- 3-7 帰国研修員との個別面接を所属機関に訪問して行い、回収した質問表に基づいて、次

の事項を聴取した。

- (a) 帰国後の職務内容
- (b) 帰国後の職務との関連でみた当該コースの有用性
- (c) 当該コースの有用性を増大せしめるために必要と考えられる改善の余地
- (d) 今後の当該コース実施に当り帰国研修員の立場から考えられる助言および勧告

3-8 帰国研修員全体に対するセミナーを開催し、開発問題に関する討論を行った。帰国研修員の職務内容が多岐にわたっているため、セミナーの内容は当該コースの3本柱の一つである「日本経済発展の経験と発展途上国」を取りあげ、「Social Capability + Economic Development」および「Integrated Dualism in Industrialization」をテーマに行うこととした。

4. 巡回指導班の活動状況 (タイ・エジプト)

DATE	PLACE	PERSON	ACTIVITIES
Sep. 8 (Tue)	Tokyo - Bangkok	JAL 463	
9 (Wed)	Embassy of Japan:	Mr. H. Kondo Second Secretary	Courtesy visit and Consultation
	JICA Bangkok Office:	Mr. A. Kasai Director	Courtesy visit and Consultation
	Ministry of Agriculture & Cooperatives:	Mr. Chote Suvipakit Director, Foreign Agricultural Relations Division, Office of the Under-Secretary of State for Agriculture and Cooperatives	Briefing on Project observation on Chainat Irrigation Scheme and Agricultural Experimental Station
		Ms. Suwanlapa Phatanapanit Mrs. Naunyong Fragapant Colombo Plan Division	System of selecting & dispatching candidates
	National Economic and Social Development Board:	Mr. Terraphon Maranusuphakul Office of the Secretary General	System of selecting candidates for oversea training
10 (Thu)	National Economic and Social Development Board:	Mr. Wirat Wattanasirithan Director, National Accounts Division	Their evaluation on the course
		Mrs. Chutaporn Lanbasara Policy and Planning Analyst	Discussion on the training in Japan
		Mrs. Wanlaya Oralratnatee Policy and Planning Analyst	
		Mr. Vinai Zansakul Chief, Administrative Sec.	
		Mr. Prasart Phetphonghan Senior Analyst	
Mrs. Vantani Kiravanich Policy and Planning Analyst &			
11 (Fri)	Board of Investment:	Mr. Chalermkol Chandharo Investment Promotion Officer	Discussion on the training in Japan
		Mrs. Prensri Katewanjse Director, Planning Division	BOI's evaluation of the course and requests to the mission
	Bureau of the Budget:	Mr. Poonsup Piya-Anant Chief, Public Health Branch	Discussion on the training in Japan and BOB's evaluation on the course and requests to the mission
	Ms. Kobbul Kanchanalai Budget Analyst 5		
	Miss Papassorn Wazayanon Budget Analyst level 5		

12 (Sat)	Project observation on Chainat Irrigation Scheme and Agricultural Experimental Station:	Mr. Aron Kulkongul Programme Coordination & Budget Division The Royal Irrigation Department	Observation of the Chainat Irrigation Scheme and Agricultural Experimental Station
13 (Sun)		Mr. Boonyong Piyasipinon Dike and Ditch Project The Royal Irrigation Department	
		Miss Papassorn Warayanon Budget Analyst level 5 Bureau of Budget	
		Ms. Kobkul Kanchanalai Budget Analyst 5 Bureau of Budget	
		Mr. Chakree Sujarithua Boromhart Irrigation Cooperative Promotion Unit	
		Mr. S. Kayangarnary CRAC Chainat	
		Mr. Sarun Boonyoi Research Scientist CRAC Chainat	
14 (Mon)	Department of Technical and Economic Corporation:	Mr. Thaval Polpuech Director, DTEC Language Institute	Discussion on the training in Japan
	Ministry of Finance:	Ms. Pensri Assavachin Colombo Plan Division	Evaluation of the course, requests to the mission
	Electricity Generation Authority of Thailand:	Mr. Kovit Pookyananda Comptroller-General's Department	Discussion & Evaluation of the course and requests to the mission
	NESDB	Miss Nopporn Ektottawan Fiscal Technician General's Comptroller Department	
		Mr. Saravoth Chandharath Engineer	Discussion on the training Evaluation of the course, requests to the mission
15 (Tue)	Ministry of Industry:		Seminar on "Employment & Industrialization"
	NESDB	Mrs. Huttaya Prongplod Senior Economist	Discussion on the training, Evaluation of the course, and requests to the mission
			Seminar on "Transfer of Technology"
			Party with all the persons concerned the mission's activities in Thailand
16 (Wed)			Report Writing
17 (Thu)	JICA Bangkok Office: Bangkok - Cairo	SV053/MS762	Report Presentation

18 (Fri)			Free
19 (Sat)	JICA Cairo Office:		Consultation
	Development Industrial Bank:	Mr. Rezah El Kassry Deputy General Manager Mr. Mahmoud F. El Wassiefy Deputy Manager, Long-Term Financing Dept. Mr. Ibrahim el D. Mohd. El Bakry Project Appraisal Officer	DIB's evaluation of the course, personal view on the former participants evaluation of the course and requests to the mission
	Investment & Free Zone Authority:	Mr. Ali Abdallah Attia Head of the Evaluation Dept.	Discussion on the course, and requests to the mission
20 (Sun)	General Organization for Industrialization:	Mr. Saad E. I. Inan Director, Head of Chemical Projects Dept. Mrs. Samia Magdi Ali Younes Senior Engineer, Chemical Dept.	Discussion on the course Evaluation of the course Requests to the mission
	Ministry of Manpower and Training:	Ms. Cassia Abdel Monea Hassouna Research Technician Vocational Training Planning	Discussion on the course Requests to the mission
21 (Mon)			Party with the persons concerned with the mission's activities in Egypt
22 (Tue)			Report Writing
23 (Wed)	JICA Cairo Office:		Report Presentation
	Cairo - Athens	MS 749	
24 (Thu)	Lv. Athens	JL 474	
25 (Fri)	Av. Tokyo		

5. 帰国研修員の現状

5-1 帰国研修員との面接は、タイにおいては Industrial Project Course 参加者 8 名中 7 名および General Course 参加者 7 名全員と面接することができた。

Industrial Project Course 参加者の 1 名は政府機関から民間に転職しており、面接することができなかった。エジプトにおいては、Industrial Project Course 参加の帰国研修員 6 名中 4 名 General Course 帰国研修員 3 名中 1 名の計 5 名との面接を行うことができた。両コースの帰国研修員総数は 9 名であるが、このうち 2 名は指導班がエジプト訪問時においてアメリカおよびイタリアにおける海外研修に参加中であり、1 名はクウェイトに渡出しており面接できなかった。残りの 1 名からは、業務多忙ということで面接を断られた。

タイ、エジプト両国共に面接し得た帰国研修員の全員が、研修参加当時の所属機関に留っており、勤務先への定着性が高いところに特徴が認められた。所属機関が研修員派遣にあたって、当該研修員が帰国後により大きく職務遂行に貢献することを期待しているのであるから帰国研修員の所属機関への定着性の高さと、さらに昇進・昇任を含む帰国研修員の転移への継続性は、当該研修が所属機関によって高く評価されていることを示すものと認められる。

タイにおいては、両コース参加の帰国研修員 15 名の中で 4 名が帰国後より指導班訪問にいたる時までの間に上級管理職に昇任しており、他の 3 名は職階の昇進を受けていた。エジプトにおいても面接しえた 5 名の帰国研修員のうちで 2 名が上級管理職に昇任していた。

5-2 研修内容の業務遂行における適用については、帰国研修員の全員がなんらかの形で実際に役立っているとの報告があった。ただしタイの場合、2 名の帰国研修員がプロジェクト評価とは関係のない部署の上級管理職に昇任しており、現在の職務に研修内容の成果を直接に適用する立場にないことが明らかになった。その他の帰国研修員は、すべて直接・間接にタイにおける工業部門のプロジェクト評価作業と関係をもっており、数名はセクション・ヘッド的な立場から下級職員の業務を監督・指導するなかで、研修内容を下級職員に対して伝播しているとのことであった。

エジプトにおいては 1 人の帰国研修員は D I B の副部長格に昇任しており同国における E D I / W B が実施している Industrial Project Appraisal Training Course の教材開発に参加し、かつ同国の関連コースにおけるインストラクターとしても活躍している。また他の 1 人の帰国研修員は I P Z A のプロジェクト評価部の部長に昇任していた。両名ともに当該コース研修の成果が極めて高いことを強調し、その職務遂行にお

ける有用性を高く評価していた。

タイ・エジプト両国ともに帰国研修員はすべて来日の経験を高く評価しており、親日感情を隠すことなく示してくれた。今後の我国と両国との国際交流における貴重な人脈がここに形成されつつあることを、実感をもって知ることができた。今後この人脈を大切に育てていく必要が痛感されたものである。

帰国研修員は、しかし若干の重要な問題点を提起した。これらは、今後の当該コース実施に当って、大いに留意すべきことであると考えられる。

- 5-3 問題点の第1に帰国研修員へのフォロー・アップの欠如である。帰国研修員に対するフォロー・アップは現在の所必ずしも十分とは云えない状態である。IDC Jは毎年帰国研修員に対して“クリスマス・カード”によるグリーティングを送っており、また帰国研修員の一部のものに対して個人的にIDC Jスタッフが文通を続け、あるいは若干の資料の送付を行ってきているが、これはあくまで組織・制度によるものではなく、個人的好意の現れでしかない。

Industrial Project Course 参加者は、当該コースがEDI/WBと連携していることからEDI FellowとしてEDIに登録されており、EDIより定期的に文献の送付 - 例えばWorld Development Project など - を受けている。これに対して、JICA/IDC Jからの組織的、制度的関連資料の送付がない。もしくはフォロー・アップが少ないことを指摘された。ほとんどの帰国研修員からProject 評価手法に関する最新の情報を送付して欲しいという強い要請があったことを特記しておく必要があるだろう。

さらに若干の帰国研修員からフォロー・アップの一部として各年の当該コース実施時期、研修員募集の時期などに関する情報を定期的に通知することが望まれた。これによって帰国研修員は、上司・同僚に対して研修内容を説明し、最適の人材を派遣することに貢献できるという意見を示された。

帰国研修員は、我国の国際交流の推進における極めて貴重な人脈を形成している。この人脈に対するフォロー・アップを実施してゆくことは、有意義なことであり、一層の強化が望まれる。

第2の問題点はフォロー・アップとの関連でもあるが、帰国研修員に対する短期リフレッシュ・コースの実施である。

- 5-4 帰国研修員は、帰国後の業務遂行の中で研修成果を応用し利用すべく努めてきているのは事実である。しかし研修といういわば“授業”から得た知識とその現実への適用に

は、かなりのギャップがあり、帰国後の職務遂行にあたって多大の困難に直面してきている。この適用の経験の中から、帰国研修員たちは1～2週間程度の再研修の機会を求めている。これはむしろ研修というよりは問題意識に基いた問題解決への示唆を求めているものであると考えられる。ある意味では理論と実践との斉合性に関する研修の宿命的な問題であるともいえよう。しかし各々の職務の都合上からして長期にわたって部署を離れることが難しくなっていることもあり、その実施に関しては、一考の余地はあるものの帰国研修員のほぼ全員が短期再研修の機会を求めているという実情を無視することは、できないように考えられる。

第3の問題点もフォロー・アップとの関連で考えられるものである。帰国研修員のあつる者たちは、すでに帰国後数年を経てそれぞれ上級管理職に昇任している。上級管理職の立場における問題意識は研修参加時の所属機関中堅スタッフとしての立場におけるそれとは、当然に異っている。職務上、より大局的な見地から考え判断を下さなければならぬ。このような帰国研修員に対して短期再招聘の機会を与え、プロジェクト評価という問題よりも政策・戦略形成への問題に関する思考の機会を与えることは大いに意義があるであろう。これはすでに形成された人脈のパイプをより強化する意味でも特に考慮されてしかるべき点であると考えられる。

6. 開発エコノミスト（工業プロジェクト）コースに対する帰国研修員上級管理者及び帰国研修員の意見

6-1 上級管理者の意見

指導班の当該国訪問中における帰国研修員の上級管理者との面接において、もっとも印象的であったのはエジプトのDIB（Development Industrial Bank）であった。Deputy General ManagerであるEl Kassry氏は、本コースに参加したEl Wassiefy氏およびEl Bakry氏の職務評価に関する個人別ファイルを取りよせ、帰国研修員の帰国時における研修報告（それぞれ20～30頁におたるもの）と、それに対する上級管理者のコメント（朱書き）とを示してくれた。さらに個人ファイルは研修参加前および後の帰国研修員の職務評価が明記されていた。この書類に基づき帰国研修員を混えて面接を行っていた時、El Bakry氏が「工場訪問で、もっとも印象的であったのは、日本の工場における一般労働者がどのようにして彼らの個人的意見を上級管理者に伝えるのか—つまり、下から上への意志伝達のシステムであった。」と述べた時El Kassry氏は、直ちに、「君の報告書には、そのことが書いてない。今、君が話したことは、非常に重要なことだ。」と注意した。これは指導班の全員にとって驚きであった。

タイおよびエジプト両国において指導班が面接することができた帰国研修員の上級管理者たちは、異口同音に帰国研修員の帰国後における業務遂行に満足しているとの意見を述べた。タイにおいては、NESDBのWirat氏（Director, National Accounts Division）は、積極的に研修カリキュラムについてのコメントを与え、プロジェクト評価部分がよりマクロ経済的な開発計画作成とのリンクを強めるならば、帰国研修員にとってより大局的な見地から業務を行い得るようになるだろうという提言をされた。これは今後の開発経済（工業プロジェクト）コースの実施に当たって大いに留意すべき点である。

6-2 帰国研修員の意見

帰国研修員の意見を総合すると、日本経済発展の経験に関する講義は、時間数が多すぎるのではないかとの意見もあったが、発展途上にある国にとっては、参考にするところが多く、非常に有益であり、日常業務にも役立っているといえる。

Project Appraisal Methodsに関しては、特にcase studyを多くし、Social Analysis, Economic Analysisに関して掘り下げた内容の研修を望む声が多かった。

ワークショップに関しては、与えられたデータがSimplifiedされすぎているのでより詳細なデータを与え実際のケースをEvaluateするかあるいはそれに近い形での

Evaluationを行う等、内容の具体化を計るとともに、ワークショップ Report Writingの回数を増した方がより効果的ではないかと意見も聞かれた。

グループ研修の場においては避け得ない問題であるが、個々の研修員の持つ問題の解決に必ずしも完璧な形で、つながり得るものではないという点が指摘された。

こうした点を少しでも改善する方策として、研修後半に共通テーマによるグループディスカッションを望む声が多かった。

実施方法については更に十全な準備をする必要はあるが、今後研修をより充実させるべくこうしたセミナータイプの研修を取り入れてゆくことは充分意義のあることである。

- 6-3 面接した帰国研修員の上級管理者は、当該コースへの応募者の人選に当って周到な手続きにより、最適の応募者を推薦したにもかかわらず、応募者が最終的に人選からもれコースに参加できなかったことについての苦言を提した。指導班は、日本サイドにおけるコース参加者人選過程および決定の方法を説明したが、なおかつ面接した上級管理者は、コースの有用性を強調し今後にはそれぞれの機関から送られる応募者に特別の配慮を日本サイドの人選委員会が行うことを求めた。

指導班が面接したタイ・エジプトでの帰国研修員の上級管理者による当該コースへの評価は、全体的に考えるならば、極めて好意的であると結論できる。しかし単に“好意的”な域を越えて現実に帰国研修員を監督・指導するなかで、帰国研修員たちが、研修の成果を具体的にあげて当該コースの認識を示したことに指導班は注目したものである。

1. 各国における当該研修派遣研修員選考手続き

7-1 当該国よりの派遣研修員選考の手続きは、次のようなルートをとるものと考えられる。

- ① 外務省/JICAより募集要綱(GI)を当該国日本大使館/JICA事務所へ送付
- ② 日本大使館/JICA現地事務所より当該国担当窓口機関への募集要綱の送付
- ③ 当該国窓口機関が関連省庁/機関を選択し、そこへの募集要綱の送付
- ④ 関連省庁/機関内部における人選
- ⑤ ④の結果を当該国窓口機関への通達
- ⑥ 当該国窓口機関より日本大使館/JICA事務所への通告
- ⑦ 日本大使館より日本外務省への連絡
- ⑧ 日本外務省よりJICA本部への連絡
- ⑨ JICA本部よりIDCJへの候補者必要書類の送付
- ⑩ JICA/IDCJによる選考委員会による最終人選

当該コースの成否は、コースの内容、実施方法に依存することはいうまでもないが、同時に参加研修員の質(モチベーションと能力)にも大きく左右される。⑩の最終人選過程においては、従来のところ、書類選考による以外の方法はない。しかも⑩の時点における選考参考書類についていえば、応募者10人中の2人までは在外公官よりの電文のみでしかないのが実情である。言うまでもなく電文で示されるものは氏名、所属官庁程度にすぎない。A-2, 3 Formが⑩の人選において利用可能なのは10人中8人程度でしかなく、しかもそれが幾つかの国に限られている。すなわちある特定国からの応募者については電文のみで選考しなければならない。

強調しなければならないことは、研修参加者に1人でも“Holiday Seeker”がいれば、全体の研修員の志気が著しく損なわれることである。

7-2 この意味で当該国がいかにして研修員を選考し、指名してくるのか、そのプロセスを知ることは、コース実施に当り極めて重要な問題である。指導班は従来のコース実施の経験にかんがみ当該国がどのようにして派遣研修員を選考するのかについて重大な関心をもったのであった。

タイにおいては②の当該国窓口機関がDTECのColombo Plan Divisionと明確になっている。指導班はDTEC/Colombo Plan Divisionの担当官と面接し人選過程につき次の情報を得ることができた。

- ① 日本大使館/JICAより募集要綱がDTECに送付されるとDTECは5人のSub-Committeeをもってタイ政府機関に対する情報の伝達を決定する。
- ② このSub-CommitteeはDTEC Director - General又はDeputy Director-General, a representative from each of NESDB (National Economic and Social Development Board), BOB (Bureau of Budget), MOFA (Ministry of Foreign Affairs) および Civil Service Commission によって構成される。
- ③ Sub-committeeにより情報の伝達を受けた政府機関は派遣研修員の選考を内部試験をもって行いその人選者をDTECに通告する。
- ④ DTECは選考された候補者全員に対してLanguage Institute of DTECにおいて英語試験を実施し、その合格者リストを上述Sub-committeeに通告する。
- ⑤ Sub-committeeは上述英語試験の結果及び職務と研修内容との関連性を基準に最終人選を行い、その結果を日本大使館/JICAに通告する。

以上のようにタイにおける当該コース参加候補者の人選には、かなり周到な配慮が行なわれているようである。特にDTECのスタッフとの面談においては帰国研修員の1人がDTEC Language InstituteのDirectorに昇進しており、かなり具体的に人選過程の事情聴取を行うことができた。

エジプトへの訪問に際しては、在エジプト日本大使館/JICAが接洽する当該コース担当窓口を確認できなかった。JICAカイロ事務所の判断でエジプト外務省には、タイのDTECに相当する機関が存在していないから直接に研修員を派遣した省庁に赴き、そこでの研修員選考状況を調取ることが望ましいということであった。

指導員が面接できたのは、DIB, GOFIおよびIFZAであった。DIBにおいては、内部選考を厳正に実施し、できるだけ優秀な人材を派遣するべく努めているむねの説明があり、かつ今後のDIB選出候補者に対して、特別の配慮をもってコース参加の機会を与えるよう強く要望された。GOFIにおいても同様な趣旨の説明があった。IFZAにおいては、帰国研修員がすでに部長格に昇進しており、本人よりの聞き取りを行うことができたが、本人が第1回コースに参加して以来IFZAに対しては、当該コースの募集要綱が配布されず、したがって当機関のスタッフは応募の機会がないということであった。

エジプトの場合には、したがって当該コースへの研修員の派遣選考過程は、エジプト外務省より「自動的」にDIBおよびGOFIに対して募集要綱が渡されるような仕組み

になっていると考えられる。しかしながら、IFZAはエジプトでの工業投資において重要な役割を果たしていることから、今後は、IFZAからも研修員が派遣されることが肝要かと思われる。

8. 今後のコース運営に関する動向

面接し得た帰国研修員およびその上司たちは、当該コースに対して高い評価を与えており、特に研修員帰国後の職務の遂行に大いに有益であると重ねて指摘された。経済発展における工業部門の発展に関わりあいを持つ諸省庁および政府機関において、かかる評価を示されたことは両国における当該コースの研修の重要度が高いものと思料される。しかし当該コースの今後の実施に関し、帰国研修員およびその上司より幾つかの貴重なコメントも与えられた。指導班の調査結果をふまえ、今後改善せられるべき点を列挙したい。

- (1) 当該コース研修員受け入れ人数を現在の15~17名から25名に増加することが望まれる。指導班の今回の訪問はタイムおよびエジプトに限られたが、この両国における当該コースに対する高い評価は、他の途上国における当該コースへのニーズの反映とも考えられる。受け入れ人数の増加は我が国の途上国援助方針の重要な一部である“人作りの協力”に妥当するものであり、是非とも実現されたい。
- (2) 当該コースは今回指導班が比較の対象とした Development Economics (General) Course とは異なり、期間も後者が6ヵ月であるのに対して前者は3ヵ月未満でかつ研修内容は、Industrial Projects Appraisal に重点がある。この点をGI(募集要綱)により一層明確に記し、GI配布に当り、関係諸国の注意を喚起し、派遣研修員候補者の選考に関して当該国がより重点的に工業開発・工業投資プロジェクト選択に直接に関係する省庁・諸政府機関より人選されるべきことを要望する必要があるだろう。
- (3) 研修員に対して日本における最終選考委員会の人選結果を研修員の予定出国日の4週間前には通知すべきである。参加研修員にとっての最大の問題のひとつは選考結果の通知があまりも遅すぎることにある。当該コース実施例としては、受入通知が非常に Short Notice (最も短い例で出国予定3日前)となってしまう研修員の立場をより深く理解すべきである。通知の遅れの原因は多々考えられるが、改善方法としては、応募のメ切日、選考結果通知日を更に早め、十分な時間的余裕を設けることも一案であろう。
- (4) 帰国研修員に対するフォロー・アップは現在の所必ずしも十分とは云えない状態である。当該コース参加者は、帰国後数年のうちにそれぞれの職場においてかなり重要なポストに昇進している。帰国研修員は我が国の国際協力の遂進に当っての重要な人脈を形成しているので、よりきめ細かな組織的フォロー・アップの実現が望ましい。
- (5) フォロー・アップの一部として帰国研修員の中から選択的に短期再研修に召へいする制度を樹立することが、人脈確保に大いに有効であろう。初期の帰国研修員はすでに政策決定に関与しうる職務についている。これらの帰国研修員に対して拠点的人脈確保の有効手段としてこの点を考慮する必要があると感じられた。
- (6) 当該コース実施に関して当該コースの主要項目のひとつである日本の経済発展の経験に関す

る部分は、単に日本の経済発展の紹介でなく現在の途上国のかかえる問題との比較においてなされるべきであるとする帰国研修員のコメントには充分に応えるべきであろう。今後このための教材開発に意を注ぐ必要がある。

- (1) 財務分析、地域、経済分析の手法を習得させ、Project Appraiser の養成を計ることが本コースの主目的であるが、前述の日本経済発展の経験の紹介方法の改善と合わせて、より合理的時間配分、より効果的研修の実施方策をさぐってゆくことにより、一層充実した研修が行えることになろう。

9. あとがき

当巡回指導班は、タイとエジプトにおける帰国研修員およびその上司の人々から、心温まる歓迎を受けた。その歓迎はまさに当該コースがそれぞれの関係者にとっていかに高く評価されているかを知らされるものであった。さらに帰国研修員の“職場定着率”の高さによって当該コースがそれぞれの職場においていかに有益なものとして理解されているかを知ることができた。

今後巡回指導班の派遣に関して次の2点を考慮されることを望みたい。

第一に、指導班の訪問国を東南アジア(タイ)および中近東(エジプト)という選択を行うことは、移動時間に大きなロスが生じることである。むしろ地域を限定して、指導班を派遣することによって、より効果的な活動が行えたのではないかと考える。

第二に、巡回指導班に与えられた職務内容が当該コースの内容とは関係なく画一的すぎることである。現地セミナーの実施は研修コースの内容によってその必要性を判断すべきであろう。当該コースのごとく帰国研修員が異なる部署に勤務し、しかもかなり多忙な職務に従事している場合に画一的にセミナーを実施することは、必ずしも効率のよい活動を行えるものではない。

指導班は、タイにおいてはG I配布の当該国窓口であるDTECを訪れ、当該コースG Iがいかに当該国で関係省庁に流布されているかを理解することができた。しかしエジプトに於ては、同国外務省からどのような選考過程を経て研修員が推薦されてくるのかについて調査することが不可能であった。当指導班としては、エジプト国外務省を訪れ悉にその実態を調査できなかったことは、非常に残念なことであった。

最後に、訪問国における日本大使館およびJICA事務所の方々をはじめ当巡回指導班の活動に多大なる御支援、御協力をたまわった関係者各位に厚く感謝の意を表したい。

昭和56年9月

開発エコノミスト(工業プロジェクト)コース

巡回指導班

10. 參考資料

10-1 研修員リスト

THAILAND

Name	Year attended	Position attended	Position in Sept. 1981
Mrs. Chotaporn Larbasara	1976	Policy & Planning Analyst, National Economic and Social Development	ditto
Mrs. Nanlaya Oratratanee	1979	Senior Economist, Economic Projects Division, NESDB	Policy and Planning Analyst
Mr. Vinai Tansakul	1980	Senior Economist, Economic Projects Division, NESDB	Chief, Administrative Section
Miss Papassorn Warayanon	1981	Attended in 1981	Budget Analyst, level 5, Bureau of Budget
Miss Euttaya Fongplod	1978	Economist, Industrial Economics & Planning Division, Ministry of Industry	Senior Economist
Mr. Sarawuth Chandharath	1980	Engineer, Hydroelectric Const. Division, Electricity Generating Authority of Thailand	ditto
Mr. Chalergpol Chandhoro	1981	Attended in 1981	Investment Officer, Project Control Division, Board of Investment
Mr. Suttipong Ittipong	1977	Project Analyst, The Industrial Finance Corporation of Thailand	(Position unknown Thai Military Bank)

EGYPT

Name	Year attended	Position attended	Position in Sept. 1981
Mrs. Sania Magdi Ali Younes	1981	Attended in 1981	Senior Engineer, Chemical Department General Organization for Industrialization
Mr. El-Wassiefy Mahmoud Fahay Mohamed	1978	Assistant Manager, Long-term Financing Dept., Development Industrial Bank	Deputy Manager
Mr. Ibrahim Eldessbuky Mohd Elbatry	1980	Project Appraisal Officer, Development Industrial Bank	ditto
Mr. Ali Abdallah Attia	1976	Senior Economic Researcher, Investment Free Zone Authority	Head of the Evaluation Dept., I.F.Z.A.
Mr. Bassily Fikry Phillip	1977	Assistant Manager of Economic Research Unit, General Organization for Industrialization	(ditto)
Mr. Galal Ahmed El Ganzoury	1979	Technical Member, Ministry of Economy, Foreign Trade & Economic Corporation	(ditto)

QUESTIONNAIRE

To the Former-Participants in
Development Economics (Industrial Projects)
{ Japan International Cooperation Agency (JICA) and
International Development Center of Japan (IDCJ) }

We appreciate greatly your cooperation in answering the following questions. (Please write in block letters or typewrite.)

Full Name: _____

Present Post: _____

Official Address: _____

Telephone Number: _____

Home Address: _____

Telephone Number: _____

Time Attended: From _____ to _____
month year month year

1. Please describe the content of your work at the present post.

2. How do you evaluate the course participated in relation to your present work? (Please check one out of the following five extents.)

- (1) Very useful (2) Fairly useful (3) Useful (4) A little useful
(5) Not useful

3. Could you explain why?

4. Have you had any opportunity for which you could apply whatever you acquired by participating in the course? (Please check one.)

Yes or No

5. If yes, how?

6. If no, why?

7. After returning home, have you ever requested JICA/IDCJ any necessary materials/information which you could use in your work?

Yes or No

8. If yes, did you receive it (them) from JICA/IDCJ?

9. We wish to hear your suggestions for the improvement of the Development Economics (Industrial Projects) Course in the future.

a. What a government agency can be best in sending its staff to the course?

b. What a level of a post in the agency you mentioned above may suit best to this course?

c. How long should the course be in terms of a number of weeks?

d. What is your opinion about the present structure of the course, namely, Japan's experience, Project Appraisal, workshop as major components?

- How much did you benefit yourself by learning Japan's experience in Economic Development?

- Were you satisfied with the project appraisal component?

- How did you think of workshop?

e. Do you think that the number of participant in the course should be increased or decreased?

If so, how many participants would you think most appropriate?

f. What a time of year would it be most convenient for participants coming from your country?

g. If you wish to add any new subjects to the course, please write down in the space below.

h. If you think to remove any subjects from the course you participated in, please write down in the space below.

10. Do you consider it useful to conduct a short refreshing course on project appraisals in your country? If so, how long a duration do you think most appropriate, and what a month of a year would be most convenient to you?

11. Finally, do you have any specific requests to JICA/IDCJ in relation to your present job?

Draft : Interim Report

The Follow-up Mission for the Development Economics
(Industrial Project) Course, JICA/IOCJ to Thailand;
Sep. 8 - Sep. 17, 1981

I. Background

The International Development Center of Japan (IOCJ) has been conducting two kinds of international group training courses in the field of development economics under the auspices of the Japan International Cooperation Agency (JICA), the Government of Japan, since 1973. Since then, JICA/IOCJ received seven participants in the Development Economics (Industrial Project) Course and eight participants in the Development Economics (General) Course from Thailand. The Development Economics (Industrial Project) Course has a duration of 10 weeks in which the participants are requested to concentrate their studies to three major components: Japan's development experience and its relevance to the contemporary developing countries, methods of industrial project appraisals including financial, economic and social analysis of projects and finally a workshop in which they will practice project feasibility studies on the ground of a set of information provided to them. The Development Economics (General) Course has a duration of about 20 weeks and the participants are expected to study a wide range of subjects covering macro- and regional development plans as well as sector plans in the fields of agriculture, transportation and public utilities. By the end of the fiscal year 1981, about 90 participants and 40 participants will have completed their studies in "Industrial Project" and "General" courses, respectively. In these two training courses, the number of the

participants from Thailand accounts for the largest in percentage-wise of the composition of the participant's nationalities.

With this background, JICA decided to send a follow-up Mission for the former participants in the Development Economics (Industrial Project) Course and asked IDCJ to organize and carry out a survey. The Mission consists of the following:

Mr. Ichirou Inukai	Training Director & Senior Economist, IDCJ
Hs. Hani Yasumuro	Training Programing Coordinator, IDCJ
Mr. Haruo Hada	Training Officer, JICA

The Mission was dispatched to Thailand in the period of September 8 to 17, 1981.

II. Objectives

The objectives of the Mission defined by JICA are as follows:

- (1) To evaluate how the participation in the Development Economics (Industrial Project) Courses could help the former participants in the fulfillment of their official works at respective government offices.
- (2) To examine whether or not the Development Economics (Industrial Project) Courses could meet the national needs in the field of human resource development, particularly in the training of government official engaged in the industrial development in their country.
- (3) To find out any means and measures which can improve the future implementation of the course in view of making the course meet better to the national needs of participants' countries.

III. Survey Method

With these objectives, the Mission considered it useful to meet all the former participants in the Development Economics (Industrial Project) Course and the Development Economics (General) Course in view of making comparisons of effectiveness in two types of training programs.

Also, the Mission adopted a three-step survey method. First, a questionnaire was sent to each participant in well advance of the Mission's visit to the country, together with a covering letter by which the purpose of the Mission was clearly explained.

Second, the Mission met with all participants individually or as a group, to hear directly of their jobs after returning to the home country, relationships of the course contents and their jobs, and frank comments and suggestions for future improvement of the course implementation.

Third, but not least important, the Mission met as much as possible the senior officials of the former participants at their ministries and government agencies, as well as the officials of the Department of Technical and Economic Cooperation (DTEC), in order to find out their views on the job performance of returned trainees from the Courses, the ways of selecting candidates from each institutions, and finally, the decision-making processes of sending a list of applicants to JICA.

It is not easy at all to fulfill the objective gives to the Mission from JICA since there is no clear-cut criteria of measuring the usefulness and effectiveness of the Course to participants as well as their own country. It is the Mission's view, however, the

continuity of job and career progress at the working places could be an important measurement.

IV. Summary of Findings

1. Continuity

The Mission found it very rewarding that all, but one, former participants to the Development Economics (Industrial Project) Course and the Development Economics (General) Course are staying at the same ministries and government agencies from which they were sent to the training courses. This fact seems to demonstrate that there is a significant extent of a continuity in job performance among the former participants.

2. Usefulness

Six out of seven participants in the Industrial Project Course and also six out of eight participants in the General Course found that their participation in the courses have been useful for their works after returning to the country. One participant in each of the two courses is now promoted to more senior posts in which the relevance of the course became smaller, but this is nothing wrong in the pursuit of one's career promotion.

3. Relevance and Application

They found the content of the course is relevant to their official duties. To a varying extent and intensity, all the participants but a few had, and still have, opportunities to apply their new knowledge obtained from the courses to performing their official duties after their return to respective offices. The effective application of their

knowledge to their work seems to have been facilitated by the continuity of their official duties. Two participants think that the course has little relevance to their present work because of promotion to more administratively responsible and more senior posts than those they had at the time of going to Japan.

The Mission also discovered the fact that most of the participants still keep the teaching materials given to them, and use parts of those as references to their current official works. This is a pleasant findings since it has been one of the purposes of providing a large quantity of teaching materials to the participants to make them use as reference materials for their work after returning to home countries.

4. Composition of the Course

The Development Economics Course is organized by three parts; Japan's development experience, project appraisal methods, and workshop. The Mission heard varying views of the participants as to relevance and usefulness of these components of the course.

It was unanimous among the participants that the part of project appraisal methods is the most useful one for them. To a varying extent and intensity, indeed, it is this part that the participants are mostly benefiting themselves by joining the course.

The Mission was advised to improve the remaining two parts. "Japan's development experience" could be more relevant and useful if it were presented by a framework of a comparative analysis between Japan and the developing countries of today. The Mission considers it very reasonable suggestion and will convey the suggestion to JICA and IDCJ. As to the workshop, it was recommended that this part of the training course should be strengthened so that the participants could

have more time in doing practical exercises in project appraisal. The Mission felt this suggestion very important since it implicitly discloses the earnestness of the participants in joining the training course. The workshop is the heaviest burden for them because they must write up their own report, either individually or as a group. In this regard, their recommendation to increase relatively the portion of workshop has to be seriously taken into the implementation of the courses in the future.

5. Institutions for Sending Participants

It is the view of the participants that the following institutions should be given opportunities for sending their staff to the Development Economics Courses, both Industrial Project and General.

National Economic & Social Development Board
Bureau of Budget
Department of Technical & Economic Cooperation
Board of Investment
Ministry of Industry
Ministry of Finance
Industrial Finance Corporation of Thailand
Bank of Thailand
Bank of Agriculture & Cooperative

6. Suitable Levels of Participants to be Selected

It was suggested by most of the participants that the most suitable levels of candidates for the Development Economics would be those who hold the ranks of level four to level six. Two participants mentioned that the Development Economics (Industrial Project) Course should benefit one who holds level six or over and in a position of a chief of a section.

7. Duration

Concernings to Development Economics (Industrial Project) Course, the shortest duration suggested was a eight-weeks and the longest 20-weeks. However, the majority of the former participants in this course tend to agree that 10-12 weeks would be the most suitable duration for the course. The Development Economics (General) Course which covers a wider range of subject would, according to the view of participants, be sufficient by 20-24 weeks.

8. Timing

The best timing of a year for participating in the Development Economics Course for each of the former participants varies to a great extent probably because different work loads in each ministry and government agencies. It appears, however, that a few months after the budget preparation are mostly welcomed by them.

9. Selection of Applicants

The Mission learned the procedure for selecting applicants to the Development Economics (Industrial Project) and Development Economics (General) Courses, and is satisfied with the procedures since they appears to be fair for all potential candidates in the government and to have been taking well care of selecting applicants. It is hoped, however, that in the future more applicants for the Development Economics (Industrial Project) Course would be selected from the government institutions which carry out more direct jobs in industrial investment promotions as that returning participants could have more opportunities in applying their knowledge an project appraisal. For the Development Economics (General) Course, it would be adjustable to

DTEC to consider more applicants from government agencies related to planning and policy formation.

10. Announcement of Acceptance

This seems to call for serious attention to both JICA of Japan and DTEC of Thailand. Among 14 former participants the Mission could interview, one received the announcement of acceptance only three days before the date of expected departure to Japan, two only one week short notices. At best, most of them were given only two weeks. A short-notice causes many tremendous problems for the participants in preparing their trip to Japan. The Mission considers it a matter of high priority in the future to improve this situation; all future participants, as the Mission's view, should be given an official announcement of acceptance at short three-weeks in advance for their departure from Thailand.

11. Contact to JICA/IDCJ After the Course

After returning to the country, almost all participants have lost contact JICA/IDCJ, except a casual communications between former instructors, course coordinators and the former participants. Most of the former participants, however, expressed their hope that some measures would be taken for keeping regular contacts between them and JICA/IDCJ. Some participants wish to be kept informed of recent development in project appraisal techniques and most up-date-information regarding sector planning methodologies; these are hard to obtain for them. It is their hope that JICA/IDCJ would establish a systematic follow-up-services to them, particularly in the dissemination of new knowledges.

12. A Short-Refreshing Course

Since the number of former participants has already reached to 15 persons, some of who joined the course several years ago, it is hoped by the all participants that JICA will organize a short refreshing course, possibly one to two weeks, in Bangkok in the near future. This would give them an opportunity to gain further knowledge about the latest development in the fields of project appraisal techniques and regional/sectoral planning methodologies.

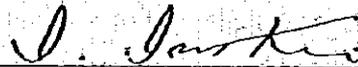
V. Concluding Remarks

The Mission was greatly impressed by knowing the dedication and earnestness of the former participants to their respective duties in the government. It is also grateful, indeed, in their openness in giving comments and suggestion for the further improvement of the course for the sake of the benefits of participant in the future. It is the Mission's conclusion that although the Development Economics (Industrial Project) Course is a shorter one than the Development Economics (General) Course, and although both courses contains many things to be improved, the former course has in general benefitted the participants, thus to the country they represented, to a considerable extent.

Finally, the Mission is grateful to all participants, government institutions, and all persons concerned to the Mission's visit to Thailand for their cooperation assistances and hospitalities given to the Mission. It could not undoubtedly carry out its work

with in the short time given to the Mission unless it was provided by tremendous helps from these people and institutions.

September 17, 1981



Ichirou Inukai
The Follow up Mission for
The Development Economics
(Industrial Project) Course

Draft: Interim Report

The Follow-up Mission for the Development Economics
(Industrial Project) Course, JICA/IDCJ to Egypt
Sep. 17 - Sep. 23, 1981

I. Background

The International Development Center of Japan (IDCJ) has been conducting two kinds of international group training courses in the field of development economics under the auspices of the Japan International Cooperation Agency (JICA), the Government of Japan, since 1973. Since then, JICA/IDCJ received six participants in the Development Economics (Industrial Project) Course and three participants in the Development Economics (General) Course from Egypt. The Development Economics (Industrial Project) Course has a duration of 10 weeks in which the participants are requested to concentrate their studies to three major components: Japan's development experience and its relevance to the contemporary developing countries, methods of industrial project appraisals including financial, economic and social analysis of projects and finally a workshop in which they will practice project feasibility studies on the ground of a set of information provided to them. The Development Economics (General) Course has a duration of about 20 weeks and the participants are expected to study a wide range of subjects covering macro and regional development plannings as well as sector plannings in the fields of agriculture, transportation and public utilities. By the end of the fiscal year 1981, about 90 participants and 40 participants will have completed their

studies in "Industrial Project" and "General" Courses, respectively. In these two training courses, nine participants came from Egypt during the period 1974-1981.

With this background, JICA decided to send a follow-up Mission for the former participants in the Development Economics (Industrial Project) Course and asked IDCJ to organize and carry out a survey.

The Mission consists of the following:

Mr. Ichirou Inukai	Training Director & Senior Economist, IDCJ
Ms. Hami Yasumuro	Training Programing Coordinator, IDCJ
Mr. Haruo Wada	Training Officer, JICA

The Mission was dispatched to Egypt in the period of September 17 to 23, 1981.

II. Objectives

The objectives of the Mission defined by JICA are as follows:

- (1) To evaluate how the participation in the Development Economics (Industrial Project) Courses could help the former participants in the fulfillment of their official works at respective government offices.
- (2) To examine whether or not the Development Economics (Industrial Project) Courses could meet the national needs in the field of human resource development, particularly in the training of government official engaged in the industrial development in their country.
- (3) To find out any means and measures which can improve the future implementation of the course in view of

making the course meet better to the national needs of participants' countries.

III. Survey Method

With these objectives, the Mission considered it useful to meet all the former participants in the Development Economics (Industrial Project) Course and the Development Economics (General) Course in view of making comparisons of effectiveness in two types of training programs.

Also, the Mission adopted a three-step survey method. First, a questionnaire was sent to each participant in well advanced of the Mission's visit to the country, together with a covering letter by which the purpose of the Mission was clearly explained.

Second, the Mission decided to meet with all participants individually or as a group, to hear directly of their jobs after returning to the home country, relationships of the course contents and their jobs, and frank comments and suggestions for future improvement of the course implementation.

Third, but not least important, the Mission tried to meet as much as possible the senior officials of the former participants at their ministries and government agencies, in order to find out their views on the job performance of returned trainees from the Courses, the ways of selecting candidates from each institutions, and finally, the decision-making processes of sending a list of applicants to JICA.

It is not easy at all to fulfill the objective given to the Mission from JICA since there is no clear-out criteria of measuring

the usefulness and effectiveness of the Course to participants as well as their own country. It is the Mission's view, however, the continuity of job and career progress at the working places could be an important measurement.

IV. Summary of Findings

1. Continuity

The Mission was able to meet with five participants. Out of a total of nine participants one left the country for work in Kuwait. Two participants were staying abroad for attending at further training programs at the time of the Mission's visit to Egypt. One participant was unable to meet the Mission due to her busy working schedule. Five participants with whom the Mission was able to have been remaining at the same offices from where they were sent to the Development Economics Courses, and two of them have been promoted to senior posts at their respective offices. The Mission, therefore, found that there is a significant extent of job continuity among the participants.

2. Usefulness

Five participants unanimously found that the Development Economics Courses are very useful for their present work. One participant from Development Industrial Bank has actively been involved in the in-service-training program since his return. The supervising senior officials of the participants explained the Mission that the job performance of the participants after returning from Japan has been so good that they would hope to

send more staff to the future courses, requesting the Mission that the Selection Committee should give high priority for applicants sent from their offices.

3. Relevance and Application

They found the content of the course is relevant to their official duties. To a varying extent and intensity, all the participants interviewed still have, opportunities to apply their new knowledge obtained from the courses to performing their official duties after their return to respective offices. The effective application of their knowledge to their work seems to have been facilitated by the continuity of their official duties. The promotion of post has been along with the same line of job categories, and this fact indicate that their application of the knowledge obtained from the courses have been well acknowledged by the participants as well as by their senior officials.

The Mission also discovered the fact that most of the participants still keep the teaching materials given to them, and use parts of those as references to their current official works. This is a pleasant findings since it has been one of the purposes of providing a large quantity of teaching materials to the participants to make them use as reference materials for their work after returning to home countries.

4. Composition of the Course

The Development Economics Course is organized by three parts; Japan's development experience, project appraisal methods, and workshop. The Mission heard varying views of the participants as to relevance and usefulness of these components of the Course

5. Institutions for Sending Participants

Relevance of the Development Economics Course to participants' work at their offices, it is recommended to give high priority to the following institutions.

Development Industrial Bank
General Organization for Industrialization
Investment & Free Zone Authority

6. Suitable Levels of Participants to be Selected

It was suggested by most of the participants that the most suitable levels of candidates for the Development Economics would be those who have substantial experience in their official work in industrial project promotion. Section head or senior officials in division/department would suit best for the Development Economics Course.

7. Duration

Concernings to Development Economics (Industrial Project) Course, 10-15 weeks would be the most suitable duration for the Industrial Project Course.

8. Timing

The best timing of a year for participating in the Development Economics Course for each of the former participants varies to a great extent probably because different work loads in each ministry and government agencies. It appears, however, that June to August could be the best timing for Egyptian participants.

9. Selection of Applicants

The Mission learned the procedure for selecting applicants to the Development Economics Course remains to be improved at the level of inter-ministerial coordination. At the level of individual institutions such as DIB, GOFI and IFZA, however, the selection of applicants have been carefully done through the nomination committees in each institutions.

10. Announcement of Acceptance

This seems to call for serious attention to both JICA of Japan and the Government of Egypt. One participant the Mission could interview, received the announcement of acceptance only three days before the date of expected departure to Japan. At best, most of them were given only two weeks. A short-notice causes many tremendous problems for the participants in preparing their trip to Japan. The Mission considers it a matter of high priority in the future to improve this situation; all future participants, as the Mission's view, should be given an official announcement of acceptance at short three-weeks in advance for their departure from Egypt.

11. Contact to JICA/IDCJ after the Course

After returning to the country, almost all participants have lost contact JICA/IDCJ, except a casual communication between former instructors, course coordinators and the former participants. Most of the former participants, however, expressed their hope that some measures would be taken for keeping regular contacts between them and JICA/IDCJ. Some participants wish to be kept

informed of recent development in project appraisal techniques and most up-date-information regarding sector planning methodologies; these are hard to obtain for them. It is their hope that JICA/IDCJ would establish a systematic follow-up-services to them, particularly in the dissemination of new knowledges.

12. A Short-Refreshing Course

Since the number of former participants has already reached to nine persons, some of who joined the course several years ago, it is hoped by the all participants that JICA will organize a short refreshing course, possibly one to two weeks, in Cairo in the near future. This would give them an opportunity to gain further knowledge about the latest development in the fields of project appraisal techniques and regional/sectoral planning methodologies.

V. Concluding Remarks

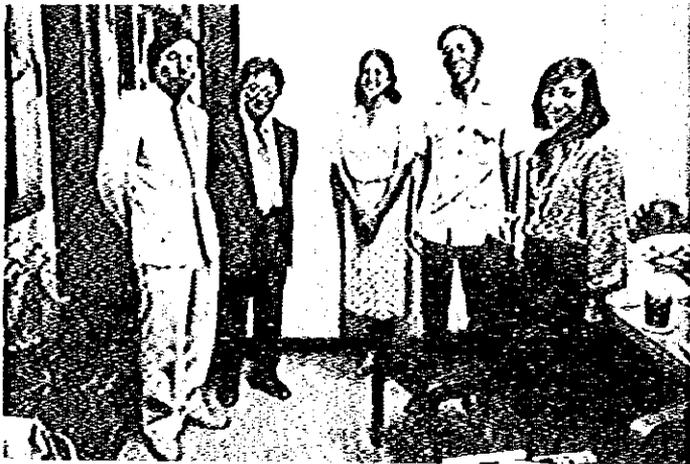
The Mission was greatly impressed by knowing the dedication and earnestness of the former participants to their respective duties in the government. It is also grateful, indeed, in their openness in giving comments and suggestion for the further improvement of the course for the sake of the benefits of participant in the future. It is the Mission's conclusion that although the Development Economics (Industrial Project) Course is a shorter one than the Development Economics (General) Course, and although both courses contains many things to be improved, the former course has in general benefitted the participants, thus to the country they represented, to a considerable extent.

Finally, the Mission is grateful to all participants, government institutions, and all persons concerned to the Mission's visit to Egypt for their cooperation assistances and hospitalities given to the Mission. It could not undoubtedly carry out its work with in the short time given to the Mission unless it was provided by tremendous helps from these people and institutions.

September 23, 1981



Ichirou Inukai
The Follow up Mission for
The Development Economics
(Industrial Project) Course



DTEC,
Colombo Plan Div.にて

セミナー風景
NESDB会議室にて



帰国研修員との懇談会にて



上： DIBにて
帰国研修員及び所屬長との面談

下： IFZAにて
帰国研修員との個別面接



JICA